



夜な夜な短歌集 2016年秋号 第9巻

題：旅

いつ。

だれと。

どこまで。

旅に、出てみませんか？

恋路

がたんごとんしばらく一緒にいられるね秋の連休ボックスシート

ねえ今日はいつもと違うことしようあなたの好きにしてもいいから

おはようって言える朝が嬉しくてとじた睫毛をずっと視ている

レイ

願望です。願望です、願望です…。



もう閉まらない

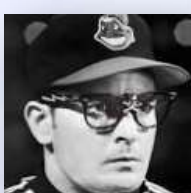
シート倒していいか聞けずに美しい姿勢のまま着いた東京

何故かいつも旅館で天気予報見るときは浴衣で風呂に行く前

母親がキャリーバッグに詰めたもの出して入れたらもう閉まらない

ちやありい

毎秒が旅だ。今は、頭のなかの、だだっ広い世界の隅っこにある
トイレに入っている。短歌はおもしろい。



旅人 ニシカワ

たまにしか
ビール飲まない
ニシカワと
出逢うとすれば
テムズの畔

昨日まで
ミャンマーにいた
ニシカワが
挨拶交わす
いつもの店で

運だろ
連絡もせず
シリアにも
行ったニシカワ
よくぞ生きてた



五行歌にしました。折句にしたかったんです。
各行の頭の一音で文章になっています。そんな歌です。

こんにちはベトナム

挨拶を三つ覚えた私ごと飛行機が着く シン チャオ Xin chàoベトナム

ベトナムの人はベトナム戦争を「勝ったんです」と快活に言う

バーバーバー カルディでwwwを見る度に巻き戻される シン チャオ Xin chàoベトナム

ベトナムは初めて一人旅をした国です。短歌を通じ、記憶の中をもう一度旅してきました。楽しかったです。



れいぽ

エメラルドの滝

エメラルドの滝沸き出ずる湯畑に硫黄の樋のならび立つ見ゆ

茂吉、鉄幹、晶子、文明の碑が並ぶ「草津に歩みし百人」として

白色のガラスを蜻蛉玉にするバーナーの火を見つめていたり

Sage (太田青磁)

湯治場には多くの歌人が逗留していようです。

一泊でなく一月くらいいたら良い作品ができてくる気がします。



長旅

ポケットにねじ込むチケット 餞別のキャラメルひとつ落としてしまう

満月の夜には着くとしたためた葉書をなくしたランプが灯る

相席の老婆はにこにこしたままで千と二日目に列車を降りた

テイ

電車の旅が好きです。
あのカタンカタンと揺れる非日常感。いいです。



子供へ帰る旅

過去へ行き少女に帰る母の日々銃後の苦しみ何度も語る

徘徊の母が行くのは故郷の町人は絶えたただ一面の曼珠沙華

子供へと旅をする母のまなざしは澄んだ秋空の光宿しており

新地学

認知症の母のことを連作にしてみました。
どの歌も自分の体験したことに基づいています。



しでかしたこと

旅先で見かけた同郷ナンバーに親近感と、ちよつと舌打ち

ハズレくじ引くの嫌さに国道沿い全国チェーンのお店を探す

絵葉書のような小舟と澄んだ海「そうだ、タバコやめるかな」

七色一味

旅先で決意したりやらかしたりした事。
私はこれで、タバコをやめました（古いなあ〜）。



呼吸

滝をみに並んであるく遊歩道空間にまう肌をさすオト

とつぜんに広がる景色目の前に一緒に出会う同じ一瞬

葉をゆらし手招きしてるここだよとそこに寝そべり大の字になる

June

言葉で表せないものを31文字で感じさせる、そんな事が
できたらいいけど、難しい。



小旅行く憧憬

流れ去る景色の隅に置き去りの冷凍蜜柑句読点として

あけ

やまあい

朱や黄に染まる山間無人駅三毛は微睡む秋の陽溜まり

空高くうろこ雲達誘えども私の旅は微睡みのうち

久しく旅とは無縁な生活の私には難しかったか。
オノシの思考がトリップするわってね。



てる

旅の余白

乗り過ごし一駅戻る道すがら知らない町の迷子の仔犬

地図を見て歩き始めたはずなのにたどり着けない君の笑顔に

ぼんやりと空を見上げてお茶してるそんな時間があっていい旅

みちくさ

旅も短歌も詰め込み過ぎはいけません。
道に迷う時間を楽しむほどの余裕を持って徘徊したい。



とても小さな

とりどりの光の花を眺めながら東京湾を降りゆくJAL機

溜め込んだ苦さをそろそろ捨てようと決めて乗り越す通勤電車

花園と蒼い湖と氷原をときおり出して旅をつづける

雪（永山雪）

もうしばらく旅らしい旅はしていませんが、作歌のための
記憶を探る作業は、とても楽しい旅でした。



水先人

お魚はぼく一人きり 海は今
さざ波たてて息を吐きだす

モニターの両生類は今
微かに笑った 指をしゃぶっている

ゆるりゆらゆるりゆら羊水の海
わたしはあなたの水先人

なんで、この歌なのかはとりあえず追及しないでくださいーい
(照)

永遠のウソ
ついでます

ふみ

海を見に

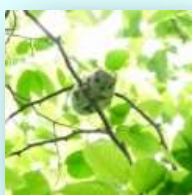
胸にあるお願いごとを一つ消すあなたと海を見に行く朝に

隣り合う肩がいつしか触れたのは線路に伝う振動のせい

スカートのすそをはためく海風よ私を二割増しに見せてね

モモモモ (もも)

海への旅は、かなりスーパーでスペシャル。



タビノタネ

手招きを秋明菊がするもので風吹く路地に迷い込む午後

落ち葉踏みしながらカフェへ行こうよと赤いベレーの君が言うから

濃い空に誘われるまま手を伸ばす前人未踏の雲の大陸

h
a
n
a
k

他愛ない毎日の中にも、タビノタネはたくさん芽吹いている。
ほらそこ、君の足元にも。ね？



片道切符

トランクの持ち手を握り直してる影の伸びゆくプラットホーム

ななめ前ボックス席には少年と黒衣の女 落ちてくる夜

街の灯が星屑になる左手の片道切符を照らす月光

s a i k i (柚木ことは)

行ってみたいものです。夢がちらばる無限の宇宙へ。
しあわせさがす旅人の一人として。



編集後記

短歌のルールは基本的に五七五七七だけ。季語もありません。詠み人たちはリズム良く、漢字、ひらがな、カタカナ、時にはアルファベットを駆使して、スペースも効果的に使います。今回は「旅」のお題に、折句や、改行の魅力を活かした歌も寄せられました。旅の行き先も詠み人それぞれ。普段は短歌に縁がない方にも短歌っていいな、と思ってもらえたなら、無上の喜びです。

企画・写真・編集 momonga（もも）

背景素材 somephoto さま

夜な夜な短歌集 2016年秋号第9巻／2016年10月発行／企画・編集 momonga（もも）

- 当歌集に掲載されている文章・画像等の無断転載はご遠慮下さい。使用する際は、事前に確認していただくをお願いします。歌集の紹介や読書メーターでのレビューは大歓迎です。
- 『夜な夜な短歌コミュ』とは、読書メーターにあるコミュニティです。短歌が好き、短歌を詠みたいというメンバーが集まって交流をしています。みなさんも良かったら一緒に短歌を作ってみませんか？ [*夜な夜な短歌人による 夜な夜な短歌コミュをみる](#)